

解散 先ず「会（会合）」の手まねをしてから、その両手を左右に分離して、掌を前方斜めに向きかえて、更に左右に離して行く。

解釈 意味——説明

会場 会合——所

改心 悪るかった——御免御免——心変える。

外套（オーバー） 掌を下に向け、五指の指頭を斜め下にさした左手の手首の上に、掌を上に向けた右手を十字にのせたまま、くるとその掌を下向けにする。外套の袖口がダブルに折返しになっているのを表わしたものの。

介抱（看護） 匠（右手で左手の脈をとる）

愛——（可愛がる）

会話 五指の指頭を集め合わせた両手を向い合わせて、交互にぱつと五指を開いて、手の中から何にかを放ち合うようにする。両手を対坐した二人として、口から互に「言葉」を放ち合う様。

買う 「売る」と逆の運動。即ち掌を上に向け五指の指頭を右にさした左手（商品）。その手前に「金銭」を表わした右手。その右手（金銭）を前にさし出すと同時に左手（商品）を胸もとに引き寄せる。

却って 五指の指頭を上にした両手を背中合せに（手甲を合わす。即ち親指をのぞいた四指の背を合わす）してから両手を左右に離す。「反対」の手まねともなる。

帰える 指頭を上にした人差指を前方から胸もとへ引き寄せる。

○「家に帰る」

胸の前で先ず「家」の手まねをして、左手をそのまま残して置いて、右手の指頭を上にした人差指を前方から左手に引き寄せらる。

変える（変わる）（代り） 人差指の指頭を前方にさして、掌を上に向けた両手。右手を

左へ左手を右へと移動させて、腕を交叉させる。右のものが左へ、左のものが右へと「交わる」のである。

鏡 左手の五指の指頭を上にしし掌を顔に向け（手鏡を見るように）右手の五指の指頭を上にしし掌を前向けて後頭部にかざす（後の髪具合を鏡で見る）。合せ鏡を表わす。

係員 (イ)「委員」と同じ手まね。(ロ) 責任

——男性（或は女性）

柿 まるい物（果物）を掴むように五指を彎曲した右手を口もとに持って行き、噛じる真似。

鍵 五指の指頭を上にしし掌を前向けた左手甲の上で、右手で鍵をねじる真似。

鉤 人差指をカギ形に曲げる。

限り (イ)「終る」と同じ手まね。

(ロ)「以下」とも同じ手まね。

書く 右手で、筆かペンなどを持つようにして、字を書く身振りをすればよい。

覚悟 諦^{あきら}める——決心。

隠くす 左手を少し挙げて、その脇の下に右手をさし込むようにする。袖の下に物を隠くす身振り。

学識 研究——識^しる（賢い）

格別 拳を下向けにした左手の腕下膊部の上に、右手の親指と人差指の指頭を合わせたので、下から人形を描く。昔（明治時代）の日本陸軍の特務曹長の制服の袖の上に逆V字の印しがあったことから、この「特」を象したもので。即ち「特に」「特別」「格別」の手まねになった。

学問 「学識」と同じ。

学力 学問——腕利き。

家業 家——商い（或は「仕事」）

隠れる 上体を右斜めに屈がめ、両手で顔